

1 日時 令和8年2月19日(木) 19:00~20:30

2 場所 長崎市役所 会議室(長崎市魚の町4-1)

3 議題

報告

- (1) 長崎市の専門職との多職種連携についての取り組み
- (2) 令和7年度 長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会について

協議

- (1) 今年度の地域意見交換会について
- (2) 今年度の地域意見交換会のグループワーク時にでたご意見から抽出した〈入退院支援における多職種連携の4つの課題〉について
- (3) 入退院支援における多職種連携の課題(①病院と在宅間の認識の相違)について

4 配布資料

(1) 事前送付資料①

1) 次第

2) 令和7年度 医療・介護連携部会(多職種連携検討部門)~入退院支援における多職種連携~

資料1 長崎市の専門職との多職種連携についての取り組み

資料2 令和7年度 長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会

連絡事項 3/12(木)医療・介護連携部会までの流れ(スケジュール)

3) 医療・介護連携部会(多職種連携検討部門)部会委員名簿

(2) 当日配布資料

座席表

5 委員及び事務局の発言内容等

—議事開始—

【事務局】

- 事務局による開会の挨拶
- 委員紹介
- 事務局紹介
- 資料確認

—報告:(資料1・資料2)について(説明)—

【事務局より】

- 資料に基づき説明

—協議(1)今年度の地域意見交換会について—

【事務局より】

- 今年度の地域意見交換会に関して、周知方法などを含めたご意見をいただきたい。

【長崎市包括ケアまちなかラウンジ】

・3カ所(南部・中央部・北部)でそれぞれ異なる事例が取り上げられた理由について知りたい。

⇒【ながさき地域医療連携部門連絡協議会】

大学病院の特殊症例ではなく、医療機関や職種を問わず身近に感じやすい症例を選定。各症例は医療機関とケアマネジャー・訪問看護ステーションとの連携が必須のものに限定。また、事務局の地域包括ケアシステム推進室から AYA 世代は除外してほしいとの依頼であったため、その点は除外し選定を行った。

【長崎市包括ケアまちなかラウンジ】

・開業医・勤務医双方の参加が少ないと感じる。入退院支援では医師参加が重要。

→【長崎市医師会】

在宅医療は病院が担う方向性が出ており、医療提供体制の変化の中で、地道な活動の継続により勤務医の参加も増えてくるとされる。

→【長崎市薬剤師会】

個々の医師に対する情報提供書の活用により処方改善につながった事例が紹介され、全体的参加促進と同時に個別対応も重要。

【長崎市医師会】

・11団体による多職種連携のもとで地域意見交換会が実施されたことは非常に良い。

【長崎市介護支援専門員連絡協議会】

・他の研修会と重なったことはあるが、ケアマネジャーの参加がもっとあれば良かった。事業所内事例を発表できる機会として有意義であった。

【ながさき地域医療連携部門連絡協議会】

症例紹介の時間が長く、参加者から時間不足の声が聞かれた。講話は2職種で十分ではないか。また、ファシリテーターは中立の立場である行政担当者が適切だと感じた。

【長崎市訪問看護ステーション連絡協議会】

参加ステーションが固定化し、多くのステーションの参加が得られていない。

【長崎市地域包括支援センター連絡協議会：当室欠席のため事務局が代読】

- ・会場規模が100名超と大規模すぎる。エリアをさらに分けることも検討すべき。
- ・多職種チーム化推進に向けた名簿について、さらなる連携のしやすさや相談先の明確化のためにも必要との意見が多いことから、エリアのチーム内でのグループ編成での協議も有効と考える。

【長崎市薬剤師会】

・Web参加(ハイブリッド形式)の導入提案。対面が難しい者も参加しやすくなる。

【長崎市歯科医師会】

- ・ 歯科医師の参加が少なかった。

【事務局】

11 団体との共催で継続。毎年開催は困難なため、隔年程度のペースで実施予定。

協議（2）今年度の地域意見交換会のグループワーク時にでたご意見から抽出した

〈入退院支援における多職種連携の 4 つの課題〉について

事務局が提示した 4 つの課題：

- ① 病院と在宅間の認識の相違
- ② 情報共有の内容の相違
- ③ 窓口や施設情報等の不明さ
- ④ 病院の制約

【ながさき地域医療連携部門連絡協議会】

- ・ 課題④「病院の制約」は、病院ごとの地域性や在宅資源の差があるため要因から除外するべきではないか。

⇒ 【長崎市医師会】

その通りだと思う。④はこのような現状があることを前提に、他の項目について話を進めてはどうか。

【長崎市薬剤師会】

- ・ ①～③それぞれに関連事項も出てくるため、限定せず全体的に議論した方が良い。

協議（3）入退院支援における多職種連携の課題（①病院と在宅間の認識の相違）について

【市医師会】

病院と在宅のギャップは本質的に避けられない。かつて中間施設として介護老人保健施設が設置されたが、長期滞在利用に変質し機能を果たせなくなっている。現在、在宅介護施設の嘱託医が対応できないため、在宅医が対応する動きが広がっている。

また、病院が「在宅は無理」で、在宅の方が「在宅でも生活できる」というケースはあまりないと思う。

【長崎市包括ケアまちなかラウンジ】

- ・ 医師が「無理」と判定しても、様々なサービスの組み合わせにより在宅復帰は可能なケースが多く存在している。
- ・ 在宅医療についての認知が進み、病院勤務医の兼務在宅医が増加している現状。
- ・ 若い医師や総合診療科医による在宅医療実践も増加中。

【ながさき地域医療連携部門連絡協議会】

病院と在宅では役割が異なり、時間感覚も異なるため、ギャップを完全に埋めるのは困難。対応策として、早期退院支援とカンファレンスの質向上により、各々の病院で既に取り組んでいることの底上げが次のステップとなる。

また、在宅側のバックベッド・相談先として機能する関係構築が重要。

【長崎県理学療法士協会】

- ・病院の機能により対応が異なる。急性期病院では家屋・家族調整がされないことがほとんど。
- ・在宅側は準備なく退院者を受け入れると寝たきり化が予測されるため対応困難。このギャップは埋まらない。

【長崎県栄養士会】

- ・病院の栄養士は、在宅で活動する様々な職種に対する認知が低く、病院からの情報提供は「普通食」のみで詳細情報が不足している。
- ・医療・福祉の栄養士による交流研修を開始し、顔の見える関係づくりに着手している。

【長崎市介護支援専門員連絡協議会】

- ・入院期間が長いほど在宅復帰のハードルが上がる。在院日数が短い中、準備時間の確保が課題。
- ・早期から情報を得られれば、在宅側の体制も円熟し対応可能。情報提供の早期化が重要。
- ・認識の違いは当然。重要なのは相互連携の中での役割分担の明確化。
- ・課題：独居・高齢者世帯増加により、ケアマネジャーのシャドーワークが増加。加算制度の問題も含め多様化している。
- ・365日の時間外対応を支える体制構築が必要。

【長崎市訪問看護ステーション連絡協議会】

- ・顔の見える関係が非常に重要。関係構築により、困難ケースでも受け入れやすくなる。
- ・紙情報提供だけでは不十分。薬の一包化情報など個別対応が必須。
- ・医学モデルから生活モデルへの転換が重要。

【長崎市歯科医師会】

- ・歯科医師の連携参加が消極的な現状がある。口腔は限定範囲のため、依頼受動的になりやすい。
- ・情報提供の具体性が不足。「問題なし」との記載でも実際には口腔衛生状態が悪いケースが多い。

【長崎市薬剤師会】

- ・薬局は病院と在宅の中間に位置し、セルフメディケーション期から看取りまで全過程で関与。
- ・かかりつけ薬局・薬剤師の推進が重要だが、現在は在宅医療に関わる薬剤師が限定的。
- ・注射剤・デバイス(CADD ポンプ等)・麻薬対応の課題等により、在宅(自宅や施設)では対応困難なケースも存在。

【長崎県作業療法士会】

課題①の「在宅」という言葉が、介護保険分野のことを言っているのか、何を指しているのかが不明確。
また、在宅からのフィードバックについて、誰が誰に向かって何を出すのかがわからない。

⇒ 【長崎市包括ケアまちなかラウンジ】

在宅からのフィードバックは実施されているが、必ずしも全て病院に連携されていない可能性。

⇒ 【長崎市訪問看護ステーション連絡協議会】

- ・情報提供書の送付は基本的に実施。求めるものと提供するものの相違が課題。

- ・病院から治療終了で退院するのは当たり前だが、退院後に在宅生活が困難となっているケースは多い。
- ・生活モデルの中での支援が必要。
- ・顔の見える関係構築が重要。ICT活用により、直接面会に替わるカンファレンス方法が増加。
- ・各地域包括支援センター範囲内での小規模カンファレンスの充実により、医師参加と地域内の顔の見える関係が構築される。

【長崎市地域包括支援センター連絡協議会：代読】

- ・地域ケア会議や事例検討会、入退院時の情報交換・共有を丁寧に実施しているが、処遇困難ケースで本人のコンプライアンス不良により急な退院を余儀なくされることがある。対応策として、多職種が顔を合わせ、相互の職能・役割・制度制約を理解する機会の継続が重要。
- ・ケアマネジャーや包括職員は専門職間のコンフリクト解決に悩むことが多い。
- ・提案：ケアマネタイムのようなリスト化、MCS等の非公開型SNS活用も有効。

その他意見なし

— 議事終了 —